

# 緑 化 通 信

2026  
1月25日  
(年6回25日発行)  
第514号



発行所

一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階  
TEL.(03)3586-7361 FAX.(03)3586-7577  
URL: https://www.uekior.jp/ E-mail: honbu@uekior.jp  
購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円



環境に配慮するため  
FSC®森林認証紙を  
使用しています。

## 新年のご挨拶

さらなる「うえきのちから」と

「緑の在り方」を発信

一般社団法人  
日本植木協会 会長

佐久定規

(有)千代田緑地・茨城県



新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
一般社団法人日本植木協会会員の皆様、並びに関係団体・友好団体の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。  
昨年度も多くの会員の皆様の支援を賜り、協会活動を遂行できたことに感謝申し上げます。

さて、近年、地球温暖化をはじめとする気候変動の影響は一段と深刻さを増し、季節の移ろいへの影響はもろろ、私たちの生活基盤や社会活動全般にまで大きな影響を及ぼしております。猛暑日が連日観測される異常高温が続き、時として森林火災、線状降水帯による集中豪雨、洪水や土砂災害など、人命や財産に大きな被害をもたらしております。また、野生動物が生息する奥山と、私たち人間の生活圏である里山との境界は次第に失われつつあります。さらに、都市部ではヒートアイランド現象が顕著となり、緑の持つ環境調整機能への期待はこれまで以上に高まっております。私もこれまで都市緑

地・公園緑地の整備に関わってまいりましたが、今後はグリーンインフラが掲げる「自然環境が有する多様な機能を活用した持続可能な魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組」、生態系の保全・再生を通じて防災・減災や生物多様性を含めた地域の課題を複合的に解決しようとする考え方」の必要性を問われてくるものと考えております。

一方、働き方改革への対応、人件費の上昇、材料・燃料費の高騰など、業界を取り巻く経営環境は厳しさを増しており、企業努力だけでは吸収しきれない局面も生じております。

そのような中、緑化産業として「都道府県別緑化樹木供給可能量調査を実施して

るのが、2027年3月に神奈川県横浜市で開催される「GREEN×EXPO 2027(2027年国際園芸博覧会)」です。2026年10月からは造成工事に続き、本格的な植栽工事が開始される予定であり、国内外の多くの来場者の皆様から、未来の都市と緑の関わり方を提示できるまたとない機会となることでしょう。本博覧会を通じて、「緑の在り方」や「うえきのちから」を改めて広く社会に発信し、夢と希望、そして安らぎを感じていただける空間づくりに全力で取り組んでまいります。

また、協会の継続事業として「都道府県別緑化樹木供給可能量調査を実施して

おりますが、植物の育成状況や生産量を迅速に市場に伝え、業界の健全な発展を目指し、持続可能な供給体制の確立に努めています。

また、啓発活動の一環として「緑育出前授業」を実施しておりますが、都市環境において緑地が益々希少になる中、子どもたちが自然と触れ合い、健康に成長することを願うとともに、植物への理解を深める機会を提供することで、未来の世代へ美しい緑の日本を継承していく活動を推進してまいります。

## 新年のご挨拶

「地球課題の解決にむけて

森林の循環利用を推進」

林野庁 長官

小坂 善太郎



新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。  
一般社団法人日本植木協会及び会員の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、緑化用樹の生産などを通じて、都市を含めた国土の緑化、生物多様性の保全、二酸化炭素の吸収等に大いに貢献いただいていると承知しており、深く敬意を表します。

さて、現在、人工林の約6割が50年生を超えて利用可能となっており、森林資源の循環利用を確立して次世代に引き継ぐことが重要です。近年、地球規模の環境問題が注目される中、これらの課題は森林が大きく関わっており、企業における森林の循環利用への関心も高まっていることから、このような流れも追い風にしたいと考えております。

川上においては本年4月に予定している改正森林経営管理法の施行により、健全な森林が次世代に引き継がれることを目指します。また、国産材の需要拡大に向けては、住宅分野での木材の利用促進に加え、非住宅分野での木材利用を進めるべく、昨年10月から、自治体や企業による木材利用の促進とその効果の「見える化」を進める、「森の国・木

の街」への宣言に参画する方の募集を行っています。このような施策とあわせて、路網の整備や再造林の省力化・低コスト化、木材の需要拡大、多様な担い手の育成・確保など、総合的な取組を進めてまいります。引き続き花粉症対策についても苗木関係について特に苗木関係について

は、優良な林業種苗の安定供給を一層進めるため、苗木生産技術向上のための研修やコンテナ苗の生産施設の整備等への支援に加え、新たに苗木生産における省力化・生産性向上の取組への支援にも取り組む、生産者の皆様の取組を後押ししてまいります。

さらに、本年6月頃を目途に新たな森林・林業基本計画を策定すべく検討を進めていきます。森林・林業・木材産業の未来に希望を持っていただける基本計画となるよう、現場からの意見も踏まえながら検討を進めます。

林野庁としては、これらの取組を通じて森林・林業・木材産業を持続的に発展させ、また、我が国に暮らす全ての皆様が、森林の有する多面的機能の恩恵を永く享受できるよう、民有林・国有林が一体となり日々邁進していく所存です。

昨年の大阪・関西万博では、「天屋根リノグ」や各国のパビリオンなど、多くの木材が利用され、森林の循環利用が将来の人類の課題解決につながるという強いメッセージが発せられました。

## 藍綬褒章を受章

（有）グリーンシシクラ・埼玉県  
宍倉孝行氏

宍倉孝行顧問は、協会の「緑化用樹の生産振興や流通の要職を長年に亘り務め、緑の発展に多大な貢献がなされた」として、令和7年11月26日には、

「藍綬褒章」を受章されました。令和7年11月26日には、農林水産省の講堂において、鈴木憲和農林水産大臣より褒章が授与されました。



## 厚生労働大臣表彰

小畑 勝裕氏（有）仲松園・静岡県

小畑勝裕氏は、浜松市浜北高等技能開発校において、40年間にわたり講師として、長年にわたる人材育成への貢献とその顕著な功績が高く評価され、このたび令和7年度職業能力開発関係厚生労働大臣表彰を受賞されました。



表彰された小畑勝裕氏

11月18日には東京都港区の明治記念館において表彰式が行



記念品の銀杯



新年のご挨拶

植木をはじめとする花きの振興及び  
GREEN×EXPO 2027に向けて



農林水産省 農産局長

山口 靖

新春を迎えるに当たり、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

一般社団法人日本植木協会及び会員の皆様におかれましては、日頃から緑化用樹及び鑑賞用樹の生産供給に御尽力されるところに、植木の輸出をはじめとした花き産業及び文化の振興にお力を発揮いただき、心より感謝申し上げます。

新年のご挨拶

緑豊かなまちづくりに向けて



国土交通省 大臣官房審議官

出口 陽一

令和8年の年頭にあたり、謹んで新年のお祝いを申し上げます。

一般社団法人日本植木協会並びに会員の皆様におかれましては、平素より公園・緑地関連行政にご支援、ご協力を賜っていること、厚く御礼申し上げます。

コロナ禍や情報技術の進歩に伴い、ライフスタイル

わせ、農林水産省では、花きの振興に関する法律に基づく「花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針」を改正したところです。

新たな基本方針では、生産・流通・輸出・文化・需要の5つの柱をもとに方向性を整理しております。植木に関する内容としては、例えば、輸出の柱の中で輸出先国の植物検疫要求に対応する技術の開発・普及に努めること等を掲げております。本基本方針の実現に向け、貴協会及び会員の皆様に御協力をいただきながら、その実現に取り組んでまいります。

また、昨年は大阪・関西万博が開催され、大きな話題となりました。この熱量を引き継ぎ、次なる万博と

にも6件(内1件は変更)、合計19件の計画を認定したところであり、本制度の展開を通じた都市の緑地の質・量両面での確保を進めてまいります。

そして、昨年10月に大成功のうちに幕を閉じた大阪・関西万博の勢いをしっかりと受け継ぎ、令和9年3月19日から神奈川県横浜市で2027年国際園芸博覧会(GREEN×EXPO 2027)が開催されます。本年3月にはいよいよ開幕1年前を迎えることとなり、その準備を加速化させているところです。世界中から70程度の国・国際機関に参画いただくことを目標としているほか、花や緑、食と農の魅力に加え、

して国際園芸博覧会(GREEN×EXPO 2027)がいよいよ1年後に開幕となります。

GREEN×EXPO 2027は、「幸せを創る明日の風景(Scenery of Future for Happiness)」をテーマに、神奈川県横浜市で来年3月から開催されます。

花と緑のあふれる暮らしの実現、気候変動対策や生物多様性の確保などの社会的な課題解決等への貢献を目指す本博覧会において、日本国政府出展として、日本の自然観を再考し、未来へ進むというコンセプトのもと、屋外展示では植木を用いた美しい風景としての「令和日本の庭」、屋内展示では盆栽や生け花の展示

を行います。日本の美意識を表現した展示をはじめ農のある暮らしへの関心が高まり、花き需要の喚起や新たな需要の創出が起これことを期待します。

本年は、いよいよ入場券の発売を開始するなど、開催に向けて国内外での機運醸成を加速させる重要な年となります。貴協会及び会員の皆様におかれましては、GREEN×EXPO 2027の周知等、更なる盛り上げにご協力いただきますようお願い申し上げます。

結びに、本年が我が国の植木をはじめとした花き産業にとって、実りの多い一年となるよう祈念するとともに、皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

地球環境問題の解決に資する優れた国内技術を世界に発信する絶好の機会にすべく、関係省庁や自治体、経済界などが緊密に連携し、オールジャパンの体制で成功を目指してまいります。貴協会におかれましては、園芸博覧会の成功に最も重要な役割の一つである植物調達パートナーとして、GREEN×EXPO 2027の魅力を支える高品質な植木の確保にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。この機会を通じて、グリーンが多様な価値を国内外に広く発信し、「幸せを創る明日の風景」を次世代へと継承していけるよう、引き続きのご協力をお願いいたします。

また、本年9月18日から京都府の丹波地域全体を会場として、「食農と環境そしてアートで輝く京都丹波」をテーマに、第43回全国都市緑化フェアが開催されます。このフェアを成功に導き、その成果を2027年国際園芸博覧会へと繋げ、共に成果を高め合う機会としてまいりたいと考えております。

結びに、緑豊かなまちづくりに向けた施策展開が、貴協会の益々の充実・発展に寄与していくことを期待するとともに、会員各位の益々のご健康を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年



会長

佐久定規

(有)千代田緑地

〒315-0056  
茨城県かすみがうら市 上稲吉1830-3  
TEL : 0299-59-2214  
FAX : 0299-59-5075  
E-mail : chiyo-da-ryokuchi@oguogu.jp

副会長

辰巳広之

(株)植広園

〒664-0002  
兵庫県伊丹市荻野1-172-1  
TEL : 072-770-3847  
FAX : 072-770-5284  
E-mail : tr-farm.on.06@w6.dion.ne.jp

副会長

生駒順

生駒植木(株)

〒244-0004  
神奈川県横浜市戸塚区小雀町1805  
TEL : 045-851-1805  
FAX : 045-852-6068  
E-mail : matsu-tora@ikoma-ueki.co.jp

副会長

石井新次

石井農園

〒245-0016  
神奈川県横浜市泉区和泉町7565  
TEL : 045-802-9033  
FAX : 045-802-5983  
E-mail : info@ishiinouen.jp

理事

眞鍋憲太郎

眞鍋庭園苗畑

〒080-0832  
北海道帯広市稲田町東2線6  
TEL : 0155-48-2120  
FAX : 0155-48-2169  
E-mail : mobile@manabegarden.jp

理事

大久保吉広

(有)猿島ガーデン

〒306-0504  
茨城県坂東市生子1847-1  
TEL : 0280-88-0073  
FAX : 0280-88-0697  
E-mail : info@garden-s.co.jp

理事

栗原隆治

(有)栗原緑地

〒336-0976  
埼玉県さいたま市緑区寺山736  
TEL : 048-878-1355  
FAX : 048-878-2723  
E-mail : kurihara-r@jcom.home.ne.jp

理事

黒田晴彦

(有)美好緑化

〒441-3301  
愛知県豊橋市老津町字東高縄154-2  
TEL : 0532-23-0835  
FAX : 0532-23-1345  
E-mail : kuro89507855@gmail.com

理事

橋本幸夫

橋貞園芸

〒492-8342  
愛知県稲沢市矢合町1407  
TEL : 0587-36-2020  
FAX : 0587-36-4191  
E-mail : scebai@topaz.plala.or.jp

理事

小島幹央

(株)京都芳樹園

〒615-8267  
京都府京都市西京区山田北山田町39  
TEL : 075-381-3167  
FAX : 075-392-8055  
E-mail : m-kojima@hojuen-gc.co.jp



新年のご挨拶  
ネイチャーポジティブの実現に向けて



環境省 自然環境局長

堀上 勝

令和8年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。一般社団法人日本植木協会及び会員の皆様におかれましては、平素より、自然を中心とする環境行政の推進にご理解、ご協力頂き、厚く御礼申し上げます。

さて、昨今、我が国においても、企業を中心に、ネイチャーポジティブが大きく注目を集めています。TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）に沿った情報開示を公表予定としている日本企業は、世界最多の約211社に上り、ネイチャーポジティブ宣言をした自治体・企業等の数は1043者に達しています（令和7年12月8日現在）。

このネイチャーポジティブの実現に向けて、令和5年度から自然共生サイトの認定を行い、OECMと呼ばれる「保護地域以外で自

護地域を設定することが難しい場所でしたが、自然共生サイトという新たなツールによって、こうした場所における生物多様性保全を積極的に進めることができるとなりました。

また、ネイチャーポジティブの実現を目指す上では、現在ある自然を適切に保全することだけでなく、劣化した生態系を回復する活動や、緑地等を新たに創出していく活動も同様に重要と考えています。昨年4月には自然共生サイトを法制化した地域生物多様性増進法が施行されましたが、この法律では生物多様性を維持する活動に加えて、生物多様性を回復・創出していく活動も認定の対象に加えました。これらを全て含む自然共生サイトの数

は485カ所、認定面積は約10・5万haに達しています。また、申請者の半数以上が企業であり、企業の関心の高まりを感じています。

さらに、ネイチャーポジティブ実現のためには、自然環境保全の取組だけでは足りず、経済、社会、政治の全てにおける横断的な社会変革が必要とされています。今までごおりから脱却して社会・経済そのものの変革にアプローチをしていく新たな局面にきています。昨年9月には「生物多様性の価値評価に関する検討会」を開始し、海外で進みつつある価値取引の動向も見ながら、我が国における価値評価手法の基本的な考え方をまとめていくことも進めています。

そのような中で、貴協会による緑化等の推進は、ネイチャーポジティブの実現に向けて、益々重要になっていくと考えております。今後とも緑化等を通じた環境保全活動に一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会及び会員の皆様方の益々のご活躍とご発展を祈念いたしまして、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶  
環境緑化のさらなる推進に向けて



一般財団法人  
日本緑化センター 会長

加 来 正 年

新年明けましておめでとうございます。一般社団法人日本植木協会会員の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのことお慶び申し上げます。また、平素より当センターの事業活動に対して格段のご理解・ご協力を賜っておりま

すことを心より御礼申し上げます。令和8年の年頭に

あたり、謹んでご挨拶を申し上げます。現在わが国においては、2030年に向けて、地球温暖化防止対策としての脱炭素社会の実現や、2022年の生物多様性条約締約国会議COP15において採択されたネイチャーポジティブ（自然再興）の

実現が喫緊の課題として取り、昨年も都市公園内のソメイヨシノの原木が突然倒れるという事故が発生しました。高度経済成長期以降、都市環境の悪化を防止するために緑化が積極的

に推進されましたが、現在それら緑化のために植栽された樹木が大大木化し、狭小な植樹や不適切な管理方法と相まって、公園や街路樹などの都市の緑地における倒木や落枝による身近な危険が増大しています。そうした危機的な状況から、現在全国で3,000名を超えている樹木医の活動の重要性が益々高まってきました。

そうした中、昨年2月に当センターの「樹木医」の資格が、国土交通省が定め

る「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格」に登録されました。この制度は「社会資本ストック」の維持管理・更新を適切に実施するためには点検・診断等の質が重要であることから、これらに携わる技術者の能力を評価し、活用するためにできた制度であり、樹木医は「都市公園」部門の「公園施設（樹木）」に対する点検・「診断」業務に登録されました。このことは、国民の安全・安心を確保するとともに快適な生活空間を創造するということにつながることほもちろんですが、それ以上に、樹木が真

の意匠での「社会資本ストック」すなわち「グリーンインフラ」として認知され、位置づけられたということであり、このことが大変重要な意義です。今後とも、当センターの所管する樹木医をはじめ、松保護士、自然再生士の資格制度を活用して、信頼される優秀な環境緑化の技術者育成に全力を挙げて取り組んでまいりる所存であります。

また、工場緑化全国大会は今年も1月に開催する運びとなり、同大会においては「全国どりの工場大賞」の表彰を行うこととしています。30 by 30の目標の達成はもとより、これからのわが国の環境緑化における民

間の取り組みにおいて、企業による工場緑化の取り組みは非常に大きな役割を担っていることから、今後とも企業による環境緑化促進の取り組みを進めてまいります。そして、当センターにおいては、一般の方々の緑に対する関心の高まりや環境緑化の技術者のスキルアップの要請にこたえるために開設している「グリーンエー

ジ オンライン アカデミー」をさらに充実させるとともに、機関紙である「グリーン・エージ」などと合わせて環境緑化思想や技術の普及・啓発はもちろん、環境緑化の技術者の育成にも資するよう努めてまいります。

理事  
内 山 淳  
(株)山都屋  
〒703-8273  
岡山県岡山市中区門田文化町2-11-51  
TEL : 086-272-2161  
FAX : 086-272-2142  
E-mail : yamatoya@po.harenet.ne.jp

理事  
古 賀 尚 樹  
愛花夢(株)  
〒839-1205  
福岡県久留米市田主丸町船越750-2  
TEL : 0943-72-1522  
FAX : 0943-72-1534  
E-mail : icode@r7.dion.ne.jp

理事  
西 郷 純 一  
西郷農園  
〒899-0216  
鹿児島県出水市大野原町1890  
TEL : 0996-62-0638  
FAX : 0996-62-6986  
E-mail : saigo-noen@abelia.ocn.ne.jp

監事  
内 田 耕 一 郎  
曼珠苑  
〒182-0017  
東京都調布市深大寺町3-30-3  
TEL : 042-484-3115  
FAX : 042-487-4884  
E-mail : manjuen@sage.ocn.ne.jp

監事  
小 畑 勝 裕  
(有)伸松園  
〒434-0031  
静岡県浜松市浜名区小林329  
TEL : 053-586-2819  
FAX : 053-586-5972  
E-mail : sinsyoen@cello.ocn.ne.jp

令和7年度 第5回理事会を開催  
令和7年9月26日(金)13時から協会会議室において、理事14名及び監事2名出席のもと第5回理事会が開催された。

令和8年度の年度会費（正会員：10万円、賛助会員：12万円）は、現状の同額で了承された。

【報告事項等】  
○2026年版カレンダーの申込状況等について  
昨年同時期とほぼ同水準となる5,700部の申込があったと報告された（最終的な申込部数は約6,900部）。また、2027年版カレンダーについても、引き続き制作を継続することを決定した。

【協議事項】  
○役員候補者推薦規程の一部改正について  
前回理事会で審議できなかった理事候補者及び監事候補者の資格の明確化、役員候補者推薦委員会の構成の変更について審議した結果承認された。

【協議事項】  
○会員の年度会費について  
協会の概要及び活動内容を分かりやすく紹介することを目的として、新たにパンフレットを作成した旨の説明があり、一部修正意見が出されたが、本内容にて発行することになった。





(一社)日本植木協会 令和8年度通常総会  
歓迎  
新年のご挨拶・関西ブロック

関西ブロック長(滋賀県支部長)

松 居 隆 史

松居農園(株)(滋賀県)

新年あけましておめでと  
うございます。本年1月28  
日京都市に於いて(一社)  
日本植木協会令和8年度通  
常総会が開催されます。た  
くさんの会員の皆様がお集  
まりいただくことに、大変  
感謝申し上げます。  
この度、関西ブロック長  
を拝命しました。松居農園  
張りたいと思います。宜し  
くお願い致します。  
さて、おかげ様を持ちま  
して、全国の植木協会員様  
のご協力で、大阪・関西万  
博を大盛況にて終える事が  
できました。私も、家族と  
行きましたが、大屋根リン  
グ上の植栽、また、大屋根リ  
ングから見下ろした緑を見  
て、改めて緑の力は偉大だ  
と感じました。また、大屋  
根リングの下の日陰・大径  
木の日陰が、昨今の酷暑に  
は大変有効と感じました。  
修景緑化だけでなく、イン  
フラにも植木は必要なもの  
にしていく事で私たち植木  
業界が持続的なものになる  
かと感じております。今度  
は、横浜で行われる国際園  
芸博です。協会の力を存分  
に示していきたいでしょう。  
結びに、コロナのゼロゼ  
ロ融資も完済まであとわず  
かとなり、資金繰りや人手  
不足・物価高騰等、中小零  
細企業には大変厳しい局面  
を迎えておりますが、皆様  
のご健勝とご多幸をお祈り  
申し上げます。

京都支部長

小 島 幹 央

(株)京都芳樹園

新年明けましておめでと  
うございます。本年が協会  
員皆様にとって、より良い  
年でありますよう御祈念申  
し上げます。2026年1  
月28日に(一社)日本植木  
協会総会が開催されるの  
を、開催地支部として心よ  
うお祝い申し上げます。現  
在各ブロック持ち回りで、  
総会を開催しており、次回  
関西での総会は数年前にな  
る予定です。この機会に京  
都で久々に開催される全国  
博覧会2027年開催の前



総会に多くの会員様に参加  
していただき、冬の京都を  
楽しんでいただきたいで  
す。  
京都支部の紹介です。京  
都支部は現在7名で活動し  
ています。京都という土地  
柄、植木生産業ではなく、  
卸業を主にされている事業  
所が多いです。取り扱う商  
品は台杉等伝統的な庭木等  
を含め様々な商品を取り  
扱っています。支部活動は  
関西ブロックの事業活動に  
参加して活動しています。  
全国でも会員の減少及び支  
部の維持などが難しい時代  
に差し掛かっていると思っ  
ますが、出来る限り支部を存続  
させていきたいです。



年で、花博植物材料納品事  
業等多忙になりますが、こ  
度の向上していくよう祈念  
致します。  
植木協会が益々発展と認知  
度が向上していくよう祈念  
致します。

新年あけましておめでと  
うございます。本年もよろ  
しくお願い申し上げます。  
兵庫県支部は、会員数12  
社園では兵庫県東部の尼崎  
市、伊丹市、宝塚市に集中  
し、県内の神戸市、阪神間、  
姫路市方面、大阪府、京都  
府等の消費地に向け樹木等  
を出荷しています。  
兵庫県支部活動として  
は、1年に2回支部会を開  
いていきます。毎回ほぼ全  
員出席され意見交換会、親  
睦を深めています。関西ブ  
ロックの事業にも多くの会  
員が参加して、お手伝いな  
ども積極的にしています。  
関西ブロック総会や、ブ  
ロック研修会にも支部から  
補助を出し、多くの会員が  
参加しています。  
最近では大阪市梅田北ヤ  
ードの再開発、大阪万博、  
兵庫では大型物流倉庫、某  
球団2軍球場、アリーナ等  
大型物件、インバウンド向  
けの宿泊施設等が進んでま  
すが、住宅関係も大手メー  
カー、住宅設計関係者が手  
掛ける植栽材料も、各産地  
から取り寄せ各現場に出荷  
されています。また、開発  
面積を考えますとバブルや  
震災の後と比べて、全然少  
ない状況です。  
昔は公共と民間が競って  
山をまるごとニュータウン  
や公園、ゴルフ場にしたり  
する事業がいくつもあり、  
その材料の生産と流通量は  
半端なく、今とは比べ物に  
ならないほど多かったと思  
いますし、またそれができ  
た業界でした。  
時代は変わり、あの  
頃とは違った生産と流  
通の方法が確立しつつ  
ありますが、逆に少し  
大きな計画が出ると品  
物がそろいません。作  
業人員もいません。ど  
うするか?  
金(資本)もない  
労力もない我々ができ  
るのは、知恵を出すこ  
とではないでしょうか。  
か、競争もいいた  
が、他県の協会員様た  
ちと共に、力と知恵を  
合わせて対応し、業界  
を盛り上げるべきと思  
います。皆様と共に明  
るい未来が来ますよ  
う、努力していきたい  
と思います。



ブロック研修に積極的に参加

た業界でした。  
時代は変わり、あの  
頃とは違った生産と流  
通の方法が確立しつつ  
ありますが、逆に少し  
大きな計画が出ると品  
物がそろいません。作  
業人員もいません。ど  
うするか?  
金(資本)もない  
労力もない我々ができ  
るのは、知恵を出すこ  
とではないでしょうか。  
か、競争もいいた  
が、他県の協会員様た  
ちと共に、力と知恵を  
合わせて対応し、業界  
を盛り上げるべきと思  
います。皆様と共に明  
るい未来が来ますよ  
う、努力していきたい  
と思います。



ブロック総会に積極的に参加

大阪・奈良・和歌山県支部長(前年度)

杉 田 高 歳

杉田園(大阪府)

新年あけましておめでと  
うございます。大阪・奈  
良・和歌山県支部長(前  
期)の杉田と申します。  
令和8年度通常総会が1  
月28日に関西ブロックの京  
都府で開催されます。協会  
員の皆様のご出席を心より  
歓迎申し上げます。  
さて、本支部は大阪7  
社、奈良2社、和歌山1社  
で構成されています。活動  
状況としては、緑育出前授  
業を2023年7月府立三  
都府で開催されます。協会  
員のご出席を心より  
歓迎申し上げます。  
また、新年会を  
兼ねた支部総会を  
年初開催し、会員  
間の知識の研鑽と  
業界の展望につ  
いて熱く語っていま  
す。関西ブロッ  
クとしては園内にと  
どまらず園外の研  
修を年一回積極的に行い地  
域の会員の方々と親睦を深  
めています。  
昨年4月には大阪万博が  
開催され関西が賑わい、な  
お一層活性化しました。一  
お一層活性化しました。一  
方、緑化業界にとっては必  
ずしも活況とは思われませ  
ん。  
最後に、日本植木協会の  
発展と会員皆様のご活躍を  
お祈り申し上げます。

園に出向き、児童  
に植樹体験しても  
らい緑の大切さ・  
役割については環境  
保全の理解を説き  
ました。  
また、新年会を  
兼ねた支部総会を  
年初開催し、会員  
間の知識の研鑽と  
業界の展望につ  
いて熱く語っていま  
す。関西ブロッ  
クとしては園内にと  
どまらず園外の研  
修を年一回積極的に行い地  
域の会員の方々と親睦を深  
めています。  
昨年4月には大阪万博が  
開催され関西が賑わい、な  
お一層活性化しました。一  
お一層活性化しました。一  
方、緑化業界にとっては必  
ずしも活況とは思われませ  
ん。  
最後に、日本植木協会の  
発展と会員皆様のご活躍を  
お祈り申し上げます。





ルポ

シリーズ 社園さん紹介 No.31

グンゼグリーン(株)

横浜営業所

神奈川県(横浜市瀬谷区)

グンゼグリーンは、地域・生産者・社会・社員と多方面でつながり、三つの驍や社是に込められた精神を大切に、若手とベテランが共に成長している企業です。緑の提供により、安全で明日をもっと心地よく暮らせる持続的な社会の実現をめざす。それがグンゼグリーンの使命です。



インタビュー風景



瀬谷協会の出荷場



瀬谷協会の農場にて



上段左から田中孝文所長、清水尚さん、池田智範社長、下段左から田内賢太さん、石引恵美さん、今村証哉さん、三井大輔さん、石井萌恵さん、石井仁太郎くん（抱っこ）

### グンゼグリーン(株)の成り立ちは？

**社長の池田さん：**「グンゼの原点は明治期の生糸事業です。桑を育て、蚕を扱う生産者と共に歩んだ歴史から、“地域と共に成長する”精神が育まれました。その延長として緑化事業に着目し、農家の皆さんと共に緑化木を生産。1973年の設立当初から、生産者の方々と寄り添う姿勢を大切にしています」。

**清水さん：**「昔は全国に数十か所の生産拠点があり、地域に根差した事業を行っていました。今は、生産は茨城のみですが、生産跡地に営業所を置き、メーカーとして、作ることを重視していた歴史があります」。

**木村さん：**「横浜市瀬谷では瀬谷協会の20社園の方々のご協力によって、出荷場を1つに集約してもらっています。小さい苗木から10mの樹木まで集めてくれるので、とても効率的で、大変有難い環境です」。

### 社名に込められた理念「都是」

**清水さん：**「創業地は京都府何鹿郡（いかるが）綾部町で、“郡に是（よ）しとする＝郡の模範となる”という願いが社名に込めています。グンゼは元々、都是（ぐんぜ）と書き、当時、何鹿郡の生糸は品質が安定せず、“この地域から、世界に通用する品質を生み出したい”という強い思いが創業の原点でした。そのためには、技術だけでなく、働く人の教育も重要でした」…ジャパングオリティではなくグンゼクオリティだそうです。

**池田さん：**「当時のグンゼでは、若い女性工員が働きながら読み書きや礼儀作法など人として成長するための学ぶ場がありました。心が整ってこそ良い製品が生まれる——この“人を育てる”という姿勢は、今もグンゼの理念の中に受け継がれています」。

### 3つの驍

**グンゼには3つの驍と社是がありますね。**

**清水さん：**「3つの驍とは、“あいさつをする”人間関係を築く第一歩、“はきものをそろえる”先々を考える気配り、“掃除をする”物事のけじめをつける、の3つです。まず自分を律することが大事だという考え方ですね」…私も3つの驍を心掛けたいです。

### 若手育成へのこだわり

**若手社員の育成については？**

**池田さん：**「若手には、できるだけ実際の現場に触れる機会を増やしたいと思っています。造園会社との調整や植栽作業現場や樹木生産の圃場だけでなく、様々な場所に足を運び、色々な現場を体験してほしい。そんな思いがあります。現地での案件や生産者の方々の想い、関係先の考え方に触れることで理解が深まり、その経験が植栽だけに留まらず、将来の環境についても自ら考え、提案する力につながると考えております」。

**清水さん：**「営業、生産者、現場の話を聞き、把握し、判断できるオールマイティな人材になって欲しい。若手社員のレポートや提案は、雑誌に載せられるほどのクオリティで、CO<sub>2</sub>削減の証明や、植物発電など研究博士、植物博士、昆虫博士もいるので、その知識も活かしてほしいです」。

**田中さん：**「また、グンゼ全社では創業以来“人を育てる”精神を大切に、節目ごとに行う研修を中心に、社会人基礎教育やOJTを通じて、肌着、メディカル、プラスチックなど、異なる分野の仲間と共に学び合う機会を設けています。分野を越えて関わることで、社員同士が視野を広げる良い機会となっています」。

### 福利厚生などは？

**渡辺さん：**「子育て中の社員も育休・産休を取りながら、復帰後に活躍できる環境を整えています」。

**清水さん：**「女性が緑に携われるポジションは大切。女性がもっと活躍して女性を手助けできるような企業になれたらいいです」…石井さんが2度の育休後の復帰はいいロールモデルですね。

### 就職活動の学生さんに向けては？

**池田さん：**「最近の学生は、環境課題への関心が高い。グンゼグリーンは“緑で未来を創出する”ことを掲げ、生産者の皆さんや我々を取り巻くすべての方々とも共存共栄を図りながら、持続可能な社会づくりに挑んでいます。社会貢献と事業成果を両立させながら未来を共ににつくりたいと考えています」。

### 今後どのような会社を目指していますか？

**池田さん：**「“若さと創意を活かし、世界の一流をめざす”という社是のもと、若手社員の柔軟な発想力や行動力と、ベテランの知恵



社長の池田智範さん



上段左から田中孝文所長、清水尚さん、池田智範社長、下段左から田内賢太さん、石引恵美さん、今村証哉さん、三井大輔さん、石井萌恵さん、石井仁太郎くん（抱っこ）

や経験を融合させ、若い世代とベテランが力を合わせることで日本の住環境や都市環境をより良くしていきたい。挑戦し続ける姿勢こそがグンゼグリーンの目指すべき姿です」。

### 若手社員インタビュー

牧野富太郎先生風の衣装の三井さんに大笑い！

### 仕事の内容は？

**石井さん：**「造園会社から依頼された樹木を探し、手配し、現場に納品します。植栽前の動線確認や、管理や植栽のアドバイスなど幅広くサポートしています」。



石井萌恵さん  
(育休中のために太郎くんをだっこしてインタビュー)

### 横浜営業所のいい所は？

**三井さん：**「実際にここに来るまでは、横浜は赤レンガや海のイメージでしたが…（笑）。瀬谷は生産者さんに近く、現場を直に確認できるのが魅力です。植物や畑に触れられる環境が瀬谷にある理由ですね」。



三井大輔さん  
(牧野富太郎先生風)

### 仕事で楽しいことは？

**今村さん：**「人とのつながりが増えたのが楽しいです。生産者の方々との関係構築にやりがいを感じます」。



今村証哉さん

**三井さん：**「“日の目にあたってない植物でも、世に出してあげたいな”とか、“この個性がある植物を植栽に使ったらどうなるのかな？”と、想像しながらの現場周りは楽しいです」。



田内賢太さん

### 大変なことは？

**田内さん：**「正直、早起きが苦手ですが、遅刻はしていません（笑）。産地から届く樹木を早朝に出荷場で準備するので6時起きです」…先輩から色々いじられていました（笑）。

当日仕事でインタビューに参加できなかった  
竹内徳昭さん

### 皆さんの趣味

池田さん：ゴルフに熱中  
清水さん：ヨットでの本格的な航海  
田中さん：立ち飲み屋めぐり  
木村さん：散歩に読書  
渡辺さん：リーグワン観戦、関東甲信のハイキング  
竹内さん：山城・城下町散策  
石引さん：平井大の推し活  
石井さん：育児中心としながらも、グンゼが関わる2027年国際園芸博覧会の短期出展に携わるため4月から復帰予定  
三井さん：部屋はオーストラリア産のプテロスティリスでいっぱい(笑)  
今村さん：海外サッカー観戦  
田内さん：転勤後、バイクにて江ノ島へ初ツーリング



清水さん



三井さんの趣味



# 各地で開催された総会・研修会

## 北海道・東北ブロック

### 北海道・東北ブロック総会と研修

ブロック長 松村幹了

(有)大坂林業・北海道

北海道・東北ブロックで、と総会を行いました。まは、令和7年7月15・16日、東根市のさくらんぼ夕に山形県において視察例会ントクルセンターにて総会



を行いました。その後、会員の(株)斎藤造園さんが手掛けた大イチョウ移植工事風景のドキュメント動画を視聴し、現場視察となりました。経験と技術に裏打ちされた移植工事、その後も生き活きと生き続ける古木に感銘を受けました。翌日は、山形市の(株)出羽園さん



のガーデンセンターを視察しました。多種多様な高品質な植物をお客様目線で販売している様子を見学しました。

## 中部ブロック

### ブロック研修会

前年度ブロック長 赤塚正基

(赤塚花木園・三重県)

本年度のブロック研修会 は、令和7年6月10日(火)から6月12日(木)北海道北広島にて研修会を開催いたしました。

今回の研修会には、それぞれ個々にて現地集合して総勢22名が参加していただきました。



エスコンフィールド HOKKAIDO



(有)大坂林業



エスコンフィールド北海道

## 関西ブロック

### 通常総会と研修会報告

前年度ブロック長 中西誠

(株)中西園材・滋賀県

令和7年11月28日にガーデンシティー大阪にて出席者の名のもと開催されました。議事は滞りなく進行し、全ての議案が無事承認



講演会では以前この緑化通信にも執筆をされておりました滋賀県立大学環境科学部の上河原猷二先生をお招きし、「オオバナミズキ

は、日本庭園な



(有)田宮園芸

中部圏では、ほとんど生産の無い北海道ならではの植木を目的のあたりにして、改めて北海道の広大なスケールの違いを感じました。昼食後は、北広島市にありま



(有)竹本園



由志園にて

ンバイを巡る西洋自然保護の旅」と題して講演を頂きました。特定外来生物が主に園芸用途から持ち込まれて繁殖する事例を紹介いただき、多種多様な植物を取り扱う私たちの業界も気を付けなければならないと感じました。

#### 研修会報告

関西ブロックでは、令和7年8月28日から29日の2日間、鳥取・鳥根方面で研修会を行いました。初日は鳥取県の有限会社竹本園様を訪問し、園場を見学させていただきました。園場は大変きれいに管理されており、和やかな雰囲気の中で仕事に取り組みされている様子が印象的でした。続いて鳥根の由志園を訪れ、池泉回遊式庭園を見学しました。立派な庭園松が数多く使われ、細部まで手入れが行き届いた庭園は、日本庭園な

## 関東・甲信越ブロック

### 令和7年度 関東甲信越ブロック通常総会開催

令和7年10月28日、埼玉が出席して開催、各議案は県さいたま市「ホテル プ 賛成多数で承認され新ブリランテ武蔵野」で、72名 ロック長に瀧沢政己氏、副



総会風景

博文氏が選出された。また配付した「2027年国際園芸博覧会」(G20利用方法「令和7年度事業報告」での本部報告があった。

総会後は「三師による講義に聞き入り、



瀧沢政己 新ブロック長挨拶



神田あおい講師



パーマ大佐ウクレレ漫談



あらい太郎氏



荒井菜々夏さん

楽しい時間はあっという間に流れ、その後の懇親会でも歓談を楽しみました。



中国・四国ブロック

通常総会・研修報告

前年度ブロック長 内 山 淳

(株山都屋・岡山県)

通常総会

令和7年11月26日、鳥取県米子市「米子ワシントンホテルプラザ」において、中国・四国ブロック通常総会を開催しました。ブロック会員17名に加え、協会本部から辰巳広之副会長をお迎えし、計18名の出席となりました。



内山ブロック長挨拶

櫻井太副ブロック長の司会により、内山ブロック長の挨拶、辰巳副会長の祝辞に続き、議事へと進行しました。第1号議案の令和7年度事業報告・決算報告、監査報告、第2号議案の令和8年度事業計画案・予算案、第3号議案の役員改選案、第4号議案の役員改選案（次期ブロック長に丹下貴啓氏を選出）についていずれも満場一致で承認されました。

併せて、本部より「2027年国際園芸博覧会」への協力要請があり、コンテナ部会、新樹種部会、青年部会からも活動報告が行われました。

午後5時30分からは市内で懇親会を開催し、久しぶりの再会に会話も弾み、和やかな時間を過ごしました。最後に、総会・懇親会の



田宮会長の説明を聞く会員



広大な農地でコケ類を生産

田宮慎二社長のご案内のもと、中国山地最高峰・大山の麓に位置する自然豊かな圃場を視察いたしました。研修では、顧客ニーズに即した樹木の選定や栽培上の工夫について詳細な説明をいただきました。併せて、近年の気



参加者全員で集合写真

候変動により夏季の樹木生産が困難となっている現状や、造園業界における若手技術者の樹木知識不足への対応など、現場が直面する課題についても共有いただきました。これらの知見は、参加会員にとって今後の事業展開や

技術向上に資する有意義な内容となりました。最後に、本研修会の開催に際し多大なるご尽力を賜りました田宮支部長に、改めて深甚なる謝意を表します。

九州ブロック

令和7年度通常総会

前年度ブロック長 福 島 明 裕

(エンザイ緑販(有)・福岡県)



令和7年11月7日には、九州ブロック令和7年度通常総会を大分市のホルトホール大分にて会員数77名中31名の出席と36名の委任状で定足数を満たして総会を開催する事が出来ました。

今総会には、お忙しい中にも関わらずお越しいただいた佐久会長からご祝辞を賜り、第1号議案から第5号議案まで、一部資料の訂正

等がありましたが滞りなく議事が進行され、すべての議案が承認されました。役員改選の年にあたり、峯ブロック長を始めとする新役員が承認されて新たな体制で次年度以降を運営していく事となりました。

今回の総会の準備と運営にあたり、会員数3名の大分県支部の皆様には大変ご苦勞をおかけした事と思えます。この書面をお借りして改めて感謝申し上げます。

令和7年6月10日、久留米市にて「温室効果ガス削減推進市民ネットワーク」代表の深澤義則氏と「株園ちゃんふぁーむ」代表の吉田俊道氏を招いて講演会を

子をお話しいただきました。また、会場を変えての懇親会では川崎氏もご参加いただき、野球談議に花が咲きました。

今回の総会の準備と運営にあたり、会員数3名の大分県支部の皆様には大変ご苦勞をおかけした事と思えます。この書面をお借りして改めて感謝申し上げます。



タイ植物が日本の暮らしにもたらす潜在的な価値は、計り知れません。文化をつなぐ架け橋となり、それがまた新たなビジネスとなっているのではないのでしょうか。

日本植木協会青年部 全国研修会 タイ研修報告

横田 圭一  
(有横田園 (東京都))



令和7年11月2日から11月5日にかけて、タイ・バンコクにおいて、(一社)日本植木協会青年部全国研修会を行いました。総勢25名の参加でとても有意義な活動となりました。

首都バンコクは、近代的都市で高層ビルが建ち並び、道路も車やバイクでほぼ渋滞といった感じでした。

観光地やホテル・公共の施設、ショッピングモールなど、どこどこにも植物がある印象でした。

初日、ナコンナヨク県では、大規模な植木農園を訪れ、樹木の育成方法、栽培レイアウト、高温多湿下での管理、出荷樹木の選別、特に効率的な根の保護や成長を促すための日射量

2日目は、ノンタブリー県での市場・流通視察、観光としてワットポー・ワットアルンに行きました。市場ではポット物が多くヘリコニア、アロカリア、フィカス、モンステラ、ヤシ類などの熱帯植物、需要の高い観葉植物、造園樹種の傾向、また植木の規格など学ぶ点が多くありました。

品種ごとの配置、回転率、梱包、消費者ニーズについて具体的な情報を得ることができました。

今回の研修を通じ、タイの植木産業はスケールの大きさに加え、生産から流通までの一貫した効率性が特徴的であると感じました。



また今後の活用や課題として、学んだ管理技術の自社圃場の試験導入、タイ産植木の取り扱いの可能性の検討、情報交換等の仕組みの構築などが必要になるのではと感じました。

タイ植物が日本の暮らしにもたらす潜在的な価値は、計り知れません。文化をつなぐ架け橋となり、それがまた新たなビジネスとなっているのではないのでしょうか。

今回、この研修に参加できてとても良かったです。美味しいタイ料理、魅力的な植物、トゥクトゥクやタイの人達、異国情緒溢れる風景。一生忘れることは無いでしょう。ありがとうございました。



庭園樹部会

令和7年度通常総会

令和7年度庭園樹部会通常総会は、10月7日に15名の参加をもって大阪府尼崎市の「ホテルビスキオ尼崎」において開催された。

通常総会は、勝山明彦副部会長による開会宣言、岩田正章部会長の挨拶に続き、来賓の佐久定規会長に挨拶をいただいた。

議長に阪上和彦氏が選出され、議事録署名人に杉田高歳氏と古川泰三氏の2名を指名して議事に入った。

第1号議案「令和6年度事業報告と決算・監査報告」については、岩田部会長よりの事業報告と決算報告が説明され、諸帳票類は適正に処理をされているという監査報告があり、第2号議案「令和7年度事業計画案と予算案」についても審議の結果、全会一致で承認された。第3号議案の役員選任、第4号議案の次期通常総会開催地区についても全会一致で承認された。第5号議案の庭園樹部会則一部改正については、協会と任期を合わせることによ



講演会の講師  
中島佳徳 氏



議長  
阪上和彦 氏



協会会長  
佐久定規 氏



部会長  
岩田正章 氏



続いて16時から樹木医 中島佳徳氏(有)中島樹木クリニック)をお迎えし、樹木の診断についての講演をしていただいた。17時30分からは、同ホテルにて懇親会が開催され、終始和やかに懇談が行われた。

総会後の産地視察研修報告

部会長

小畑 勝 裕  
(有)伸松園(静岡県)

通常総会翌日の、10月8日(水)産地視察研修を開催しました。天気に恵まれ10月とは思えない暑さの中、汗をぬぐいながらの研修となりました。参加者一同は尼崎市内から貸し切りマイクロボスに乗りし、堺市美原区へと向かいました。この地域は大阪地域で古くから庭園木の仕立て生産が盛んな生産地で、現在まで受け継がれています。最初に部会員である杉田園さんの圃場を訪れました。幹線道路や住宅地に囲まれながらもクロマツ・ゴヨウマツ・イヌマキ・クロガネモチ等の仕立物、さらにオリーブ・ユッカ類やチャメロプスなどに加えてモントレーマツ・ハクシヨウ等多くの樹種を栽培されておりました。そしてきれいに剪定管理され、一本一本に情熱を注いでいるのがよくわかり見習いたいと感じました。次に杉田農園さん(非会員)の圃場を訪ねました。近畿各地や遠くは九州の離

島からも掘出し船で運んできたという、見上げるような高さの太さのイヌマキが整然と並ぶ広い圃場に一同圧倒されました。これらは全て海外のバイヤーをターゲットにした商品ということとです。その情熱は衰えることなく、売れて圃場が空けばすぐに新しい原木を補充するということです。継続は力なりとは、まさにこれだと感じました。

また、別の圃場にはクロマツ・アカマツもきれいに管理されており感銘いたしました。中型のイヌマキ仕

立物では枝吊り用に単管パイプと足場板で気を囲み作業されている場面があり、高所の転落事故防止と作業の正確性を求める上では、これからは三脚やゴンドラ作業だけで良いのかと考えさせられました。

この後は昼食を済ませて、特別庭園樹木(名木)認定の現地審査に宝塚市に向かいました。今回は半日の視察研修でしたが、初めて訪れた訳ではないですが、また新たな発見があり良い経験となりました。最後に今回も総会を含めて研修会まで企画していただいた関西ブロック部会員の皆さんに改めて感謝申し上げます。



クロガネモチの仕立物の前で集合写真(杉田園)

お知らせ

新樹種部会 令和8年度通常総会  
令和8年2月20日(金)  
赤坂サンスカイルーム(東京都港区)  
青年部会 令和8年度通常総会  
令和8年2月10日(火)  
大阪ガーデンパレス(大阪府大阪市)

会 員 動 向

代表者変更  
▷新 持田瑛太郎 持田植木(神奈川県)  
メールアドレス変更  
▷(有)山崎瑞松園(福岡県)  
ZVE01176@nifty.ne.jp  
退会  
▷(株)道南園芸(北海道)▷英美園(静岡県)  
▷野呂新緑園(三重県)▷田籠千樹園(福岡県)

訃 報

▷江連ユキ 様(江連 勝氏のご母堂様)  
えづれ園(栃木県)  
令和7年11月1日 享年89歳  
▷島根庄司 様  
(有)茨城コンテナ 会長(埼玉県)  
令和7年12月4日 享年75歳  
▷辰巳征子 様(辰巳広之氏のご母堂様)  
(株)植広園(兵庫県)  
令和7年12月7日没 享年82歳  
▷林田 高 様(林田高夫氏のご尊父様)  
林田農園(福岡県)  
令和7年10月15日没 享年91歳

素描挿話。

～すてきな花達に魅せられて  
③1ツバキ「春日野」

小岩井農牧(株)(岩手県)  
たる さわ ただし  
足澤 匡

ツバキの語源については、過去の「素描挿話。」で書きましたが、「ツヤのある葉を持つ木」→「ツヤ葉の木」→「ツバキ」。また、「厚い葉の木」→「厚葉木(あつばき)」→「ツバキ」など、諸説あります。今回のスケッチは、「ツバキ「春日野」Camellia 'Kasugano」」。ユキツバキの系統を受け継ぐ有名な園芸品種です。江戸時代に発刊された「花壇地錦抄(1695年)」に掲載され、「椿花集(1879年)」では、「椿七木」にも入っています。八重咲きの中輪で、紅色地に白横空斑(しろよこもくはん：白い木目のように波打つ横方向の斑)などの斑が入り、花形も中心部が花芯と花弁が交じり合い、牡丹咲きや二段咲きのような形にも変化します。花一つ一つに変化があって楽しいのですが、ある意味、固定していない。いや、固定していないのが、本品種の特徴なのかも知れません。妻が茶道をたしなんていることもあり、ツバキ、ムクゲ、アジサイなど、茶花が庭に増えています。ツバキは、現在30品種ほど鉢植えて栽培しています。咲くたびにスケッチしていますが、品種それぞれに個性があって、描き写すのが楽しいです。

また、椿は高級な花木。身分の高い武士の庭には必ず植えられていたそうですが、椿を買えない下級武士の間では、花が落ちる様子が「首切り」を連想させることから「縁起が悪い」と言われ、高級な椿を植えない言い訳になっていた、と植木に精通している方から聞きました。それより、「チャドクガ」の被害が、椿、山茶花の人気をすっかり下げてしまった気がします。成虫になる前に確実に駆除することをお勧めします。ちなみに、「チャドクガ」の北限は岩手県なのですが、私の住んでいる地域では、まだ被害が確認されていません。今後は温暖化の影響で猛威を振るう可能性があるのでは、注意が必要です。いろいろと書きましたが、植物に対する興味は尽きませんね。だから、楽しいです。



令和7年度「特別庭園樹木(名木)」を認定

甚平植木 今里健吾 兵庫県宝塚市3本

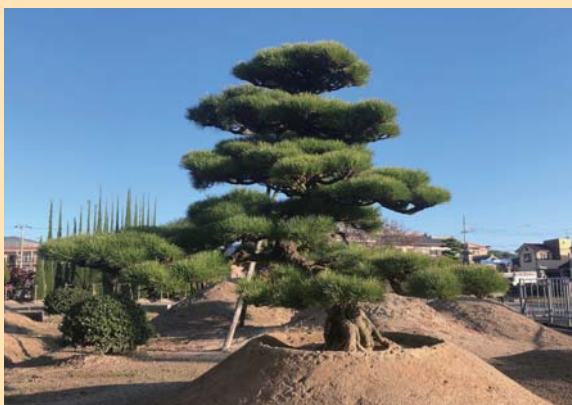
名木認定制度は、最高の技術と長い年月によって育成され芸術的風格を備えた庭園樹木(造形仕立て物及び自然型仕立物)を「名木」と認定し、その価値を称賛するとともに、生産技術の継承、生産意欲の振興を図り、ひいては需要の喚起により業界発展に寄与することを目的としています。

名木の対象樹種は、本会会員の所有する中・高木で、販売の意思があり、運搬可能であるものです。

令和7年度は、一次書類審査をすべてが通過し、現地へ赴き2次審査を行い、申請樹木のうち「品位、風格を有し、社会的希少価値が極めて高いもの」として3本が認定されました。



①クロマツ 樹形 根上り石付き  
樹高1.20m 枝張1.20m  
樹齢50年 認定番号252801



②クロマツ 樹形 根上り  
樹高1.80m 枝張2.50m 樹齢70年 認定番号252802



③アカマツ 樹形 根上り  
樹高2.00m 枝張2.30m 樹齢70年 認定番号252803